

パネルディスカッションまとめ

趣旨

- 超小型衛星やドローンにより、宇宙や空へのアクセスが身近になってきた。
- 広大な海を俯瞰する上空からの視点は重要なものである。
- 海洋関連の様々な現象を観測・将来予測／診断・監視するために
 - どのような空間分解能・頻度で
 - どのくらいの範囲や期間
 - どの程度の精度で情報を得る必要があるか

海洋側からのニーズ

- 高い頻度の観測
 - 潮汐関係なら1時間おきなど
 - 高い分解能の観測
 - ゴミ単体だと5mm
 - 高いスペクトル分解能の観測
 - 「白色」「緑色」を細かく見たい
- すべてを満たすのは難しい
- 雲の下からの観測
 - 観測の広域性と持続性
 - 高い機動力の観測
 - 強風下の砕波帯など, 出現場所が不定, かつアクセスしにくい

異なるプラットフォーム

- プラットフォームごとに異なる特性
 - 廉価性のあるドローン
 - 重量物の搭載が可能なバルーン
 - 機動性に富んだUAV
 - 高高度・反復観測のできる超小型衛星
- 有機的組み合わせによる発展
 - 一つのプラットフォームで現象を把握するより、組み合わせてお互いの不得意をカバーする
 - 広域モニタによるホットスポットの発見＋高頻度集中観測など